

特定非営利活動法人環境の杜こうち
豊かな環境づくり総合支援事業費補助金

令和8年度
別紙1 実施計画書(一般事業)
記入の手引き

1 現状と課題

本事業を実施する背景となる、地域の環境や社会の状況と課題について、記入してください。

審査員が見る視点（審査項目 ア-c）

この項目では、「事業を行う地域の環境や社会の状況を的確に把握しているか」を見ます。地域で実際に起きている事実と、そこから生じている課題を、具体的な根拠（現地での観察・データなど）とともに記入してください。

こう書くと伝わります

「地域の状況→現在起きている課題→なぜこの事業が必要か」の順に書くと、内容が伝わりやすく、次の『2 事業の目的』への流れもスムーズになります。

（1）地域の環境や社会の状況（事実）

事業の対象地域で、実際に見られる環境または社会の状況を記入してください。

「今、どうなっているか」という事実を、できるだけ具体的な根拠とともに書きます。「自然を守るため」などの抽象的な表現だけでなく、数値・データ・現地での観察など、具体的な根拠を示すと説得力が増します。

例

- ・△△海岸（延長約 1km）では、令和 7 年度に実施した独自調査で、約 45kg/100 m の漂着ごみが確認された。その 7 割がプラスチック類で、上流の〇〇川からの流入が主な要因と考えられる。
- ・〇〇地区の里山（約 2ha）は、所有者の高齢化により平成 25 年以降、下草刈りや間伐が行われておらず、臨床の光環境が悪化している。令和 7 年の団体調査では、かつて確認されていた希少植物〇〇が確認されなくなった。
- ・□□町内の小学校 5 校のうち、総合的な学習の時間で地域の自然観察を実施しているのは 1 校にとどまる（令和 7 年度、団体による聞き取り調査）。

（2）現在起きている課題（生じている問題）

現在、どのような問題が起きている（または起きつつある）のかを記入してください。「何が困っているのか」「何が失われつつあるのか」を書きます。

例

- ・海ごみの継続的な流入により海岸環境の悪化が進んでいるが、流域住民に発生源と自分たちの生活との関連が十分に認識されておらず、ごみの発生抑制につながる行動変容が進んでいない。

- ・里山の植生が単純化し、希少植物の生育適地が失われつつある。地域住民にも里山の価値が伝わっておらず、保全の担い手が確保できない状況が続いている。
- ・子どもたちが地域の生きものや自然に触れる機会を得られないまま育ち、地域への愛着や環境保全意識が育まれにくい状況にある。

2 事業の目的

本事業によってどのような環境の改善や変化を目指すのかを記入してください。

審査員が見る視点（審査項目 ア-a, b, d）

この項目では、主に「事業の目的と目標が明確に示されているか」を見ます。「何を実現したいのか」「どのような変化を目指すのか」が、読み手に伝わるように記入してください。

また、『高知県環境基本計画』（<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/keikaku-4/>）の目指す方向性と、本事業がどのように関連しているかを意識して記入すると、審査員が評価しやすくなります。

こう書くと伝わります

（1）事業の目的（何を実現しようとしているのか）

この事業によって「何を解決したいのか」「何を達成したいのか」を、具体的かつ簡潔に記入してください。

『1 現状と課題』で示した問題を受けて、この事業がそれをどう解決しようとしているのかを伝えてください。

例

- ・△△海岸における海ごみの回収活動と流域住民向け啓発を一体的に実施し、海岸環境の改善と、ごみの発生抑制につながる住民の行動変容を図ることを目的とする。本事業は高知県環境基本計画における「海洋ごみ対策の推進」の方向性に沿うものである。
- ・〇〇湿地において、専門家の指導のもと継続的な植生管理を実施し、絶滅危惧種△△（高知県レッドリスト2020：絶滅危惧IB類）の生育環境を維持・回復させることを目的とする。本事業は高知県環境基本計画の「生物多様性の保全」および環境省「自然共生サイト」の考え方とも合致する。
- ・地域の小学生を対象とした継続的な自然観察プログラムを実施し、子どもたちが地域の生きものや自然環境に親しみ、地域への愛着と環境保全意識を育む機会をつくることを目的とする。

(2) 事業によって目指す地域の変化

この事業の結果として、地域の環境や人の行動がどのように変わることを目指しているのかを記入してください。「目的を達成した結果、地域や人にどんな変化が生まれるのか」を意識して書きます。具体的な活動内容や実施方法は、次の『3 活動内容』に記入します。

例

- ・清掃活動と啓発の組み合わせを通じて、流域住民が海ごみ問題を自分ごととして捉え、日常生活でのごみの適正処理や発生抑制に取り組む世帯が増加する。
- ・継続的な植生管理により、絶滅危惧種△△の生育個体数が現状（令和7年度調査で約50株）以上に維持され、地域の生物多様性保全のモデル地区となる。
- ・自然観察プログラムの継続実施により、地域の自然に関心を持つ子どもたちが増え、将来的に地域の環境保全活動を担う人材が育っていく基盤が形成される。

3 活動内容

本事業で実施する活動の内容について、重要なものから順に記入してください。

審査員が見る視点（審査項目イ）

この項目では、「選択した手法の合理性」を見ます。『1 現状と課題』で示した課題と、『2 事業の目的』で示した目的を踏まえ、この活動を選んだ理由が伝わるように記入してください。

こう書くと伝わります

(1) 課題・目的とのつながりを意識して書く

活動を選んだ理由が伝わるように記入してください。「なぜこの活動なのか」が読み取れると、審査員が課題解決との関係性を評価しやすくなります。

活動名だけでなく、「活動内容」の欄に、課題・目的とのつながりが分かる一文を加えると効果的です。

(2) 表の各項目を具体的に書く

活動ごとに、活動名・時期・場所・対象者・参加人数・活動内容が明確に分かるように記入してください。

重要度の高いものから順に記入し、活動①・②は、次の項目『4 活動の成果指標』と同じ活動になります。活動数が多い場合は、表を増やして記入してください（最大で活動⑤まで）。

例

活動名	△△里山保全活動（草刈り・外来種除去）
時期	令和8年6月・9月・11月（年3回）
場所	〇〇市△△町地内 △△里山（約0.5ha）地権者〇〇氏より使用許可済
対象者	地域住民・ボランティア（市広報誌・口コミで公募）
参加人数	1回あたり約20名（年間延べ60名、うち新規参加者を各回3名以上確保）
活動内容	<ul style="list-style-type: none">・講師による里山の現状説明。・希少植物△△の生育エリアを優先区画として、手作業による丁寧な草刈りおよび外来種（セイタカアワダチソウ）の除去を実施。・希少種の生育状況を記録し、変化をモニタリング。・安全管理として、熱中症対策、保険加入。・参加者アンケート（里山への理解度・継続参加の意向）を実施し、次年度の活動計画に反映する。

活動名	〇〇小学校との自然観察会
時期	令和8年10月（1回）
場所	〇〇小学校 校庭および近隣の〇〇公園
対象者	〇〇小学校4年生（約30名）および保護者
参加人数	約50名（児童30名+保護者20名）
活動内容	地域の生きものや植物を観察するプログラムを実施する。専門家の解説を交え、子どもたちが地域の自然環境への関心を高める機会をつくる。観察後にアンケートを実施し、学習効果を確認する。

4 活動の成果指標

本事業の達成に向けて重要な活動について、活動のねらいと成果の指標（活動の成果を示す目安）を記入してください。

審査員が見る視点（審査項目 ウ）

この項目では、「事業によってどのような成果が期待できるか」「その成果が課題解決に結びつくか」を見ます。表の2つの欄が、それぞれ次の審査項目に対応しています。

・ **活動のねらい** 審査項目 ウ-b

→この活動を通じて何を達成しようとしているのか、課題解決とのつながりとあわせて記入します。

・ **成果の指標** 審査項目 ウ-a

→ねらいの達成状況を確認するための目安を、できるだけ数値で記入します。

こう書くと伝わります

(1) 活動のねらい

「この活動を行うことで、地域の課題がどのように改善されるのか」を簡潔に記入してください。『1 現状と課題』『2 事業の目的』との流れを意識すると、つながりが伝わりやすくなります。

(2) 成果の指標（目安）

活動①②について、事業期間内に達成できる成果の目安を、具体的な数値で設定してください。回数・人数・面積・数量など、活動の実施状況や事業による成果が確認できる指標を記入してください。

この手引きでは、成果の指標を**アウトプット（活動の直接の結果：回数・人数・面積など）**と**アウトカム（地域や環境に生まれた変化：動植物・自然環境・地域などの変化）**に分けて説明しますが、記入時に分ける必要はありません。

アウトカム（変化）を数値で示す際は、活動前後の比較、前年度データとの比較、既存の調査データの活用、活動開始前の現状把握などを工夫してください。

なお、数値での設定が難しい場合は、アンケートによる意識変化など定性的な指標でも構いません。その場合は、測定方法(実施時期・対象・手段など)もあわせて記入してください。

例 活動の種類別のねらいと成果の指標

活動の種類	活動のねらい	成果の指標
自然環境の保全（里山・湿地・外来種対策）	草刈り・外来種除去により、荒廃した里山の植生を回復させ、希少植物の生育環境を維持する。あわせて、地域住民の保全活動への参加を促し、里山を守る担い手を育成する	<p>【活動の実施量(アウトプット)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植生管理面積：年間 0.5ha ・保全作業の実施回数：年 3 回 ・外来種の除去量：年間 50kg 以上 ・参加人数：延べ 60 名以上 ・モニタリング調査の実施回数：年 2 回 <p>【地域や環境に生まれた変化(アウトカム)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希少種〇〇の確認株数：現状(50 株)維持以上 ・外来種の個体数：前年比減少(活動前後で比較) ・植生の回復面積：0.1ha→0.3ha ・継続的に保全活動に参加する住民：10 名以上
環境学習・自然体験（観察会・講座）	自然観察会を通じて、子どもたちが地域の生きものに親しみ、地域の自然への理解を深める。あわせて、家庭や学校にも関心が広がり、地域で子どもを育てる環境づくりにつなげる	<p>【活動の実施量(アウトプット)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察会の開催回数：年 3 回 ・参加人数：延べ 90 名以上 ・学校との連携数：2 校 <p>【地域や環境に生まれた変化(アウトカム)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続して観察会に参加した子どもの割合：40% 以上 ・授業に自然観察を組み込んだ学校数：1 校以上
普及啓発・行動変容（イベント・広報）	海ごみ問題に関する啓発活動を通じて、地域住民や流域住民が海ごみを自分ごととして捉え、日常生活でゴミを減らす行動を広げる	<p>【活動の実施量(アウトプット)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・啓発イベントの開催回数：年 2 回 ・参加人数：延べ 60 名以上 ・SNS 発信回数：月 2 回以上 <p>【地域や環境に生まれた変化(アウトカム)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活でゴミを減らす行動を始めた参加者：70%以上 ※アンケート ・継続的に活動に参加する住民：20 名以上
河川・海岸の保全（清掃活動）	清掃活動や水辺環境調査を継続的に実施し、海岸や河川のごみを減少させ水辺環境を改善するとともに、地域ぐるみで水辺を守る体制をつくる	<p>【活動の実施量(アウトプット)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃実施回数：年 2 回 ・回収ごみ量：年間 50kg 以上 ・参加人数：延べ 60 名以上 ・清掃した範囲：海岸線 500m 以上 ・水質・生きもの調査の実施回数：年 2 回

5 関係者の合意形成・推進体制

本事業を実施するための体制や役割分担について記入してください。

審査員が見る視点（審査項目カ）

ここでは、「関係者との協議がなされているか」「役割分担が明確か」「事務・会計体制が整っているか」を見ます。

こう書くと伝わります

(1) 関係者・役割分担の表

事業に関わる団体・関係者を記入し、それぞれが「どの活動を担当し」「どのような役割を担うか」が明確に分かるように書いてください。

関係者は、正式に協力が決まっている団体だけでなく、活動に関わる主体を広く捉えて、できるだけ記入してください。「主な役割」の欄は「広報」「会場提供」など具体的に記入すると、協議の内容が伝わりやすくなります。

また、「主な役割」の末尾に、関係者との合意形成の進捗状況を記入してください。

例

団体・関係者	担当する主な活動	主な役割
※申請団体 〇〇保全会	保全活動・観察会の企画運営	事業全体の企画・運営、保全作業の実施、参加者の募集・調整
市町村・環境課 〇市環境課	広報・後援	事業の後援、市 HP および広報誌での活動告知、関係機関への周知【調整済】
学校 〇〇小学校	自然観察会への参加	児童の参加、環境学習との連携、引率教員の協力【了承済】
企業 〇〇株式会社	保全活動への協力	保全作業に必要な資材の提供、社員ボランティアの派遣【調整中】
専門家・研究者 〇〇大学 △△教授	生物調査・講師	専門的見地からの技術指導・アドバイス、観察会での話題提供【了承済】
他の NPO・団体 〇〇自然の会	広報・参加者募集	会員への参加呼びかけ、SNS・ニュースレターでの広報協力【協力依頼済】
町内会・自治会 △△町内会	地域住民への周知	回覧板・掲示板を通じた地域住民への周知、参加者募集の協力【協力依頼済】
公共施設 〇〇公民館	会場提供・広報	講座・観察会の会場提供、施設内掲示板・配布物による周知【調整済】

例 合意形成の進捗状況

- ・調整済 : 役割・内容まで具体的に合意している場合
- ・了承済 : 協力内容の了承は得ているが、細部はこれから詰める場合
- ・協力依頼済 : 日頃から協力関係がある団体に、軽微な協力を依頼している場合
- ・調整中 : 現在協議を進めている場合

(2) 事務・会計体制の表

事業の事務および会計を担当する体制について、役割と担当者が分かるように記入してください。役割が重なっていても構いません。

例

役割	担当団体・担当者
事業代表者	〇〇保全会 会長 高知太郎
事務担当	〇〇保全会 事務局 土佐花子
会計担当	〇〇保全会 会計担当 四万十みどり

6 地域住民の参加や協働

事業における地域住民の参加方法や、地域団体・学校などとの協働の内容について記入してください。また、この事業を通じて地域への広がりや波及効果が期待される場合は、その内容についても記入してください。

審査員が見る視点（審査項目オ）

ここでは、「地域住民やさまざまな主体が参加しているか」「事業を通じて地域への波及効果が期待できるか」を見ます。『5』は「体制」を、『6』は「住民がどう関わるか」を記入する項目です。

5 関係者の合意形成・推進体制	関係団体・関係者の役割分担を記入
6 地域住民の参加や協働	地域住民がどのように参加・体験するか、活動の広がりを記入

こう書くと伝わります

「(1)参加方法→(2)協働の内容→(3)地域への広がり」の順に書くと、伝わりやすくなります。

(1) 地域住民の参加方法

地域住民が、本事業にどのような形で参加するのかを具体的に記入してください。「誰が」「どのように」参加するのが伝わるように書きます。

『5 関係者の合意形成・推進体制』と内容が重なる場合でも、この項目では「住民がどう参加・体験するか」の視点で書き直してください。

例

■海ごみ清掃・啓発活動

「町内会の回覧板および SNS で参加者を募集し、地域住民がボランティアとして清掃活動に参加する。参加者が活動後に啓発チラシを持ち帰ることで、参加していない家族や知人にも情報が届くよう工夫する。」

■里山保全活動

「地域住民を対象に保全作業への参加を呼びかけ、草刈りや外来種除去などの作業を協働で実施する。作業前に里山の現状説明を行い、参加者が保全の意義を理解したうえで活動に加わる機会をつくる。」

■自然観察会・環境学習

「地域の小学校と連携し、児童が観察会に参加する。保護者にも参加を呼びかけ、親子で地域の自然を学ぶ機会を設ける。」

(2) 地域団体・学校などとの協働

地域の団体・学校・行政などと、どのように協力して事業を進めるのかを記入してください。「誰と」「どのような形で」協働するのかを具体的に書きます。

例

■海ごみ清掃・啓発活動

「△市環境課と連携し、市の広報誌・HP への掲載および後援を受ける。〇〇漁業協同組合と協力し、海岸の利用状況や漂着ごみの実態について情報提供を受ける。」

■里山保全活動

「地元の△△町内会と連携し、参加者への周知と当日の運営協力を得る。〇〇大学の研究者に調査・技術指導を依頼し、希少種の確認と保全方法についての専門的なアドバイスをもらいながら活動を進める。」

■自然観察会・環境学習

「△小学校と事前に打ち合わせを行い、学校の環境学習のカリキュラムと連携した内容でプログラムを設計する。〇〇公民館を会場として提供いただき、施設内での広報にも協力を得る。」

(3) 地域への広がり・波及効果

この事業をきっかけに、地域や人がどのように変わることを期待するかを記入してください。記入できる場合は積極的に書いてください。

例

■海ごみ清掃・啓発活動

「清掃活動への参加を通じて、地域住民が海ごみ問題を身近な課題として捉えるようになり、日常生活でのごみの出し方や海への持ち込みを見直す行動が広がることを期待する。また、活動の様子を SNS で発信することで、参加していない地域住民にも関心が広がることを目指す。」

■里山保全活動

「保全作業への参加を通じて、地域住民が里山の現状と価値を知り、活動終了後も自発的に保全に関わる担い手が生まれることを期待する。また、地域の学校と連携することで、子どもたちが地域の自然に親しみ、将来の環境活動の担い手につながることを目指す。」

■自然観察会・環境学習

「観察会への参加をきっかけに、子どもたちが地域の生きものや自然環境への関心を高め、家庭での話題を通じて保護者にも関心が広がることを期待する。学校との連携を継続することで、環境学習が授業に組み込まれるなど、学校全体への広がりも目指す。」

7 事業の新規性

本事業で工夫している点や他地域の取組と比較して特徴がある場合は、その内容について記入してください。これまでの取組との違いや、国や県が進めている環境施策との関係があれば、その内容についても記入してください。

審査員が見る視点（審査項目キ）

この項目では、「工夫や特徴があるか」「他地域の参考となる点があるか」を見ます。

「新規性」という言葉にとらわれる必要はありません。既存の活動に加えた工夫や改善、地域の特性を活かした取組であれば評価の対象となります。国や県の施策との関連があれば、あわせて記入してください。

こう書くと伝わります

(1) 活動の工夫・改善・発展

この事業で工夫している点や、これまでの活動と比べて新しく取り入れた方法・視点があれば記入してください。「まったく新しい活動」である必要はなく、以下のような内容でも構いません。

- ・ 既存の活動に新しい手法や連携を加えた取組
- ・ 対象者や実施方法を見直して発展させた取組
- ・ 地域固有の自然・資源・文化を活かした取組
- ・ 異なる主体（学校・企業・専門家など）との新しい連携体制

例

- ・ これまでの清掃活動に啓発プログラムを組み合わせ、参加者の行動変容につながる取組に発展させた
- ・ 地域の専門家と連携することで、観察会に生物調査の要素を加え、データの蓄積と保全活動をつなげた
- ・ 小学校との連携を新たに始め、子どもたちが主体的に参加できるプログラムを取り入れた

(2) 他地域との比較・地域特性を活かした点

この活動が、他の地域の取組と比べてどのような特徴や独自性を持っているかを記入してください。「他にはない唯一のもの」である必要はありません。地域の特性や課題に合わせた取組の特徴を書くだけで構いません。

例

- ・高知県特有の清流環境を守るため、地域の漁業者と連携した独自の清掃・調査活動を実施している
- ・中山間地域の課題である担い手不足に対応するため、集落活動センターと連携した保全活動の仕組みをつくった
- ・他地域の事例を参考にしながら、地域の実情に合わせてプログラムを改良して実施している

(3) 国や県の施策との関連 ※該当する場合のみ

この事業の目的や活動内容が、国や県の環境施策と関連している場合は記入してください。「本事業は、〇〇（施策名）の推進に関連しており、～という点でその方向性と合致している」といった形で記入すると伝わりやすくなります。

●例 関連する国・県の施策

施策・取組名	関連する活動の例
自然共生サイト（生物多様性保全）	希少種の保全・外来種除去・里山管理など、生物多様性の保全につながる活動
生物多様性・希少種保全	希少野生動植物の保全活動、外来生物の防除・駆除、生物調査と行政・研究機関との連携
里地里山保全	外来種駆除・水路改善・希少種保護、伝統的知識・技術の次世代への継承、保全活動の企画運営
河川・海岸ごみ対策・清流保全	清掃活動の企画・実施、外来種除去・在来種保護、地域住民・企業との協働イベント
地球温暖化適応策	外来種防除・森林保全・災害対策など地域に根ざした活動、適応策の重要性を伝える講座・イベント

8 実績等

団体のこれまでの活動実績や、本事業に関連する活動があれば記入してください。

審査員が見る視点

この項目は、審査の点数に直接対応するものではありませんが、「この団体が本事業を実現できるか」「成果が見込まれるか」を判断するための重要な材料となります。

活動実績が豊富な団体はもちろん、設立から間もない団体や初めて申請する団体も、書き方を工夫することで事業の信頼性がより伝わります。

こう書くと伝わります

(1) 今回の事業と関連する実績を優先して書く

過去のすべての活動を羅列するのではなく、「今回の事業内容に近い活動」「今回と同じ地域・対象者・テーマの活動」を優先して、記入してください。

例

- ・里山保全活動を平成 30 年度から継続して実施（年 2～4 回、延べ参加者数 500 名以上）
- ・△市内の小学校 3 校と連携した自然観察プログラムを令和 3 年度より毎年実施
- ・△海岸での清掃活動を令和元年度から年 2 回継続、累計回収ごみ量 500kg 以上

(2) 設立から間もない団体・初めて申請する団体の場合

団体としての実績が少ない場合でも、次のような内容を記入することができます。

- ・メンバー個人が他団体・行政・学校などで培ってきた関連する経験や活動実績
- ・団体設立後に行った準備活動・勉強会・視察・関係者との協議など
- ・今回の事業に向けて既に進めている調整や取組の状況

(3) 連携実績も有効

単独の活動実績だけでなく、行政・学校・専門家・他団体などとの連携経験もあれば記入してください。『5 関係者の合意形成・推進体制』で記入した関係者との過去の連携実績は、事業の実現可能性がより伝わります。

例

- ・△市環境課と共催で啓発イベントを令和 5 年度に実施（参加者 80 名）
- ・△△大学の研究者と連携した生物調査を令和 4～6 年度に実施、調査データを市に提

9 事業計画スケジュール

本事業の実施内容と時期について、月ごとに記入してください。

審査員が見る視点（審査項目イ）

この項目では、「事業内容・日程が具体的かつ合理的に計画されているか」を見ます。「3 活動内容」で記入した活動が、どの時期に・どのような準備を経て実施されるのかが、分かるように記入してください。

計画・調整から実施・報告までの流れが整理されていると、事業の実現可能性を評価しやすくなります。

こう書くと伝わります

実施内容を活動に合わせて記入し、該当する月に矢印を入れてください。計画・調整や準備は、活動実施の数ヶ月前から進めておくと、事業の実現可能性が伝わりやすくなります。なお、実績報告書の最終提出期限は、令和9年3月1日です。

例

■ [計画・調整] 事業開始前に関係者と準備を進める段階

- ・関係者（市町村・学校・専門家など）との事業内容の打ち合わせ・日程調整
- ・活動場所の確認・地権者や管理者への許可申請
- ・講師・専門家への依頼と日程確認

■ [準備] 活動実施に向けた具体的な準備を進める段階

- ・広報チラシ・参加案内の作成・配布（町内会・学校・SNSなど）
- ・参加者の募集・申込受付・名簿作成
- ・活動に必要な資材・備品の購入・準備（草刈り道具・調査器具・清掃用具など）
- ・参加者へのアンケート用紙・記録シートの作成
- ・安全管理・緊急時対応の確認（救急用品の準備・連絡体制の整備）

■ [実施] 活動本番とその記録・発信を行う段階

- ・保全作業・清掃活動・自然観察会などの実施
- ・活動記録（写真・動画・参加人数の記録）
- ・参加者アンケートの実施・回収
- ・活動報告の情報発信（SNS・広報誌等）

別表第1

1 審査の採点

審査員は、次の審査項目ごとに1点から5点までの採点を行う。

審査項目：一般事業		配点
ア	事業目的の妥当性 a 事業の目的及び目標が明確であるか。 b 環境基本計画の目指す方向性に合致しているか。 c 地域の現状及び課題を的確に把握しているか。 d 公益性のある活動であるか。	5点
イ	選択した手法の合理性 a 課題の解決につながる手法が選択されているか。 b 事業内容、日程、人員等が具体的かつ合理的に計画されているか。 c 事業の実施方法が明確であるか。	5点
ウ	事業の効果度 a 事業実施により具体的にどのような成果が期待できるか。 b 得られた結果が課題解決に結びつくか。	5点
エ	事業の効率性 a 費用の積算は妥当か。 b 費用に見合った成果が期待できるか。 c 既存の資源を活用するなど、費用対効果が得られる工夫がされているか。	5点
オ	地域住民の参加や協働 a 地域住民及びさまざまな主体の参加があるか。 b 事業の実施により地域への波及効果及びネットワークの広がりが期待できるか。	5点
カ	関係者の合意形成及び推進体制 a 関係者との間で十分な協議がなされているか。 b 推進体制及び役割分担が明確であるか。 c 事業実施に必要な会計管理及び一般的な事務処理の体制ができているか。	5点
キ	事業の新規性 a 事業の目的が国や県の新たな施策と関連しているか。 b 新たな手法の導入など新規性が認められるか。 c 他の事業の参考となる先進性が認められるか。	5点
ク	事業の継続性 a 複数年で目標達成が見込まれる事業であるか。 b 複数年にわたって関係者との合意形成が確立されているか。 c 複数年にわたって推進体制が確立されているか。	5点

2 採択基準

採択は、ア～キの審査員の合計点が6割以上の事業を目安とする。

別表第3（注1）【一般事業】ウただし書の規定に係る審査については、「ク 事業の継続性」の審査員の合計点が6割以上の事業を目安とする。なお、事業の合計点数が同じ場合は、審査員が協議のうえ、優先順位を付するものとする。

記入のポイント

- ◆ 各項目の記入枠は、記入量に応じて自由に拡張して構いません。
- ◆ 内容が長くなる場合は、適宜改行を入れて読みやすくしてください。
- ◆ あまり長すぎると、読みにくくなります。要点をまとめてください。
- ◆ 提出された実施計画書は白黒で印刷するため、色による強調（赤字など）は反映されません。太字や記号などで工夫してください。
- ◆ 「3 活動内容」の活動数は最大⑤までです。表はコピーして増やしてください
- ◆ 「審査会実施要領 別表」も参考にしてください。
- ◆ ステップアップ事業に申請する場合も、この手引きを参考にしてください。

- ◆ 不明な点がありましたら、事務局までご連絡ください。